

くじゅう

【報 告 者】 I 橋

【日 時】 2017 年 4 月 2 日 【天 候】 雪、時々くもり

【参 加 者】 単独

《コースタイム》

5:45 牧ノ戸峠－6:03 沓掛山－6:51 扇が鼻－7:29 星生山－8:48 久住山－9:18 稲星山
－10:08 鳴子山－10:50 白口岳－11:41 中岳－11:54 天狗が城－13:29 牧ノ戸峠
(休憩・道迷いを含む)

《 報 告 》

諸々の事情があって、久しぶりに「くじゅう」を歩いてみる事にした。

法華院温泉の HP によれば、くじゅうには 1,600m を越える山が 13 座あるらしく、これをワンデイでいけないものかと考えた。

しかし、今回あいにくの天気でもあり、東側と三俣山を除く 9 座を目指す事とした。

3:20 筑紫野から下道で牧ノ戸峠へ向かう。約 2 時間で到着、暗い車内で身支度を済ませ外に出ると、広島から来たと言う青年に声をかけられる。聞くと九州の 1,700m 以上の踏破を目指しているらしい。

5:45 牧ノ戸峠を出発、いきなりの急登を終える頃には明るくなる。6:03 沓掛山を通過、扇が鼻を目指すのが西千里ガ浜手前の分岐を過ぎてガスが濃くなり風も強い。無意識に歩いているとなんかいやな予感がして、コンパスを見てみると思っている方角と違っている。赤川方面に向かっているようで、すぐさま引き返し正規ルートを取る。

6:51 扇が鼻、風が強く顔の出ている部分が痛い。山頂標識を撫でてすぐに分岐まで引き返す。分岐から星生までは手を使うほどの急登がちらほらと。

7:29 星生山、下りの岩が少しあるところは雪が付いており慎重に通過する。岩場を過ぎて妙に足元が柔らかく感じ、コンパスを出すと北寄りの尾根を歩いている。少し登り返して下るものの、どうも北寄りの尾根に入ってしまう。スマホの GPS で確認しようとするが電波が届かず地図は出ない。ガスが濃く視界が利かない上、ここでルートを変えると硫黄山の臭気にやられる心配もあるので、はっきりしたところまでしっかり登り返し、正規ルートに戻る。

8:48 久住山、ここでも風が強く飛んでくる雪なのか砂なのか顔に当たって痛い。強風の時ここはいつもこんなである。山頂標識にタッチしてすぐに引き返す。一旦下って稲星山を目指すのが、この地味なきつさの上りもバランスを崩すほど風が強い。

9:18 稲星山、冬はたいてい風が強いので早々に下りに入るが、ガスは濃い。なだらかな下りにまたまたルートを見失う（本日3回目）。コンパスを当てると方角は合っているのですが、ヤブでもいいのかとしばらく突き進むが、木々に行く手を阻まれ諦めて再度登り返す。少し探しているうちに徐々に視界が利いてきたので難なくルート発見。

10:08 鳴子山、ここでは一瞬だけ日が差したので暖かく、少し長めの休憩を取った。

10:50 白口岳、誰もいないと思った山頂で、おそらく年齢がそうは違わない山ガールが岩陰から顔を出し、お互い森のくまさん状態となり驚きあう。話せばレゾネイド泊で朽網別れ方面から登ってきてそのまま戻るらしい、なんとツヤな。ここから中岳へ向かう途中、雪と風が強くなりショートカットできないかと道っぽいとこからヤブに入るが、しばらく進んだあと木々に行く手を遮られ、あえなく元のルートへ引き返す（ここは迷ったわけではない、念のため）。

11:41 中岳、ご高齢の男女3人パーティと二言三言交わし、寒いので早々に下る。

昨晩は法華院温泉に宿泊し、久住・中岳と登っているらしい、これまたツヤやね。

11:54 天狗が城、相変わらず見通しはきかず風は強い。ここまで全くいい景色が見れていないが、少しはと思い池の小屋方面へ向かう。強風のせいで体感温度は低いが気温はそれほどでもない為、御池は凍っていない。そこから戻る途中、強風に煽られ一回コケてしまう。

いよいよ最後の肥前が城を目指す。ガスで取り付きらしいところもはっきりわからず、ず〜っと植生保護のためらしいロープが張ってあるので諦める事にした。

西千里が浜から牧ノ戸峠を目指す。雪がアラレに変わりいやな予感がしていると雷が...、拠り所になる場所もないので早足で下る。

13:29 牧ノ戸峠、車上には厚いところで7~8cmの積雪になっていた。

今回の山行は、天気にも恵まれず雪と風に苦労させられ、油断すると凍傷になりそうな場所もあった。また、ガスにより視界もきかず、人気の春のくじゅうも他の登山者はあまりいなかったようだ。

もう少し日が長くなってから、大船山・北大船山・平治岳・三俣山を含めた全山を目指してみたいものである。

